

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念にそった取り組みを行っているか、職員間で話し合う機会がある。	「住み慣れた地域の中で、自分らしさや誇りを持ち、安心と安らぎのある暮らしをサポートする」という理念が玄関、ホール、二階に掲示され、来訪者にもわかり易くなっている。スタッフは会議で理念について話し合い、自分の言葉として理解し、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の、小、中学校や幼稚園、ボランティアさんとの交流や近隣の人たちがたくさん野菜や果物などを届けてくれる等地域との関係づくりが出来てきている。	自治会に加入しているので地域の住民はホームを良く理解しており、時季の野菜や果実などの差し入れをしてくれる。幼稚園児や小・中学生との交流や地域のボランティアの来訪などふだんの暮らしの中でふれあう機会が多い。近くの中学生生徒が資源回収で得た貴重な資金で寄贈してくれたステップ台は入居者の昇降運動に利用され体力維持につながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症講座「認知症サポーター」の開催や、運営推進会議等で認知症の人を多くの人に理解していただけるような取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催により、家族や地域の人たちの意見を参考にし、サービス向上につなげている。	二ヶ月に1回開催されている。活動内容報告や今後の予定等について入居者家族、区長、民生委員、市職員、ボランティアとの話し合いが行われている。	その時の議題に応じて必要な方に出席して頂き、認知症やホームについてより理解し協力を頂けるよう更に工夫を加えていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等で事業所の取組について率直な意見を頂いたり、評価を受けている。	市の介護支援連絡会に出席し困難事例の話し合いをしている。管理者は公民館で認知症についての講演も行っている。介護相談員が訪れ入居者と話したり相談に乗っており、市内の地区社会福祉協議会の研修視察なども受入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない取り組みをしている。玄関の施錠については、時間を定めて行ったり、夏の暑い時期には開放している。	身体拘束や施錠に頼らない支援を行っている。外出の気配を感じた時は一緒に外に出て話し、本人の希望に沿って散歩などの支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議で徹底している。		

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業の活用に関係者と協議し、契約の立会いの支援を行い、安心して生活できるように制度を活用した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行っている。又、解約時には本人、家族に理由を説明し、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で活発な意見や要望を聞く機会を設けている。	家族が来訪された際には話し易い雰囲気作りに努めている。運営推進会議にはそれぞれの家族に交替で出席していただき、会議以外でも意見や要望をいただき運営に反映させている。入居者ごとの暮らしぶりを記した各家族宛の「おたより」やホームの「こだま便り」がコミュニケーションを円滑にする手段として役立っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議などで話し合う機会がある。	スタッフ会議は全員参加で、お互いに自由に言える雰囲気があり活発に意見が出ている。基本的には二ヶ月毎となっているが必要に応じて開かれている。管理者が職員の夜勤の際に個別に面談する機会もあり、意見等を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自、向上心を持って働けるように介護職員処遇改善交付金や、諸手当などの条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修の機会を持ち、再度同じ研修を内部で行い、全職員が共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北信圏域宅老所会主催の研修会で交流する機会がある。		

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	なるべく多くの情報を得て、その人を知る。又、細かな観察力と五感を働かせて寄り添う関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困り事や不安な事に耳を傾けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、どんな支援を望んでいるのか見極め、その人にあったサービスの支援を行っている。又、介護計画を立てている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物干し、食事の支度や畑仕事など共に支え合って、生活できる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を保っていけるような取り組み(外出やクリスマス会参加)を多く持てる取り組みをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人との関係が、途切れないように気軽に面会に来ていただけるような働きかけや、電話でいつでも会話できるような支援もしている。	電話や手紙で馴染みの関係を継続出来るよう支援している。馴染みの美容院に行かれる入居者もいる。独居で入居した方には自宅のお仏壇のお参りに職員が同行している。遠方の親戚等から贈り物が届いた際にはお礼方々手紙や電話をし、馴染みの関係の継続のための支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に支え合って仲良く生活されている。孤立してしまう原因は、難聴が関係しているため職員が仲介し、利用者同士が孤立しないように支援している。		

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じ家人への情報提供、相談の機会を設け支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各自の希望、意向に沿ったケアプランを立て支援している。	本人・家族の思いや意向を聞いて把握に努めている。お正月には入居者全員がその年1年の目標を立て、自分の思いを語り合う機会がある。職員と1対1になった時に「家にいた時は……だよ」と入居前の暮らしぶりを話してくれる入居者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各自の生活歴や生活環境、身体状況を把握できるよう、家族、知人からの情報収集に努め、支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各自の状態、能力を把握できるよう細目な記録、様子観察に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や家族の意向を参考にする。又、アセスメントにより、できることと出来ないことを見極めて職員間で話し合いをしながら介護計画を立てている。	職員は入居者1名以上を担当し、介護計画作成時に本人・家族の意向や要望に沿い提案し、モニタリングやカンファレンスにも参加している。状況が変化した時にはその都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別記録に記入する。又業務日誌に記録するなど情報を職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や美容院、買い物等、その時々生まれるニーズに対応できる支援を行っている。		

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のボランティアの受入を行っている。(紙芝居、三味線)又、幼稚園や学校との交流、家族や知人のふれ合いにより豊かな生活を楽しめる支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診を支援することで、本人や家族が安心している。又、体調変化については、速やかに治療をうけられるように支援している。	本人と家族が希望したかかりつけ医となっている。予防注射もかかりつけ医で行われている。家族が受診に付き添えない時は職員が同行し結果を家族に報告している。歯科については協力医療機関で受診しており職員が付き添い家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の記録の中で、体調の変化や気づきを共有している。看護職や訪問看護師等と相談し、適切な受診や看護力も充実している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	細やかな情報交換に努めている。又、病院関係者(医師、担当看護師、ケースワーカー)と話し合いを持っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の意思決定を最優先にし、家族の意向も考慮している。主治医や訪問看護師と連携をとり、チームで取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた指針はあるが、ホームでの直接の看取りを行なったことはない。重度化した時はその過程に応じて家族や医師、職員間で綿密な話し合いが行なわれている。ホームで支援出来る範囲を超えた時は家族と相談し、専門性のある施設等に移っていただいている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急通報訓練、年/2回実施している。電話の設置位置に緊急連絡先等を掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	10月:スプリンクラー設置工事を行った。敷地内には管理者が生活している。又、隣接敷地には、防火管理者の住居があり、火災報知器が連動して鳴る様に配線してある。	消防署の指導の下、年2回、消火、通報、避難・誘導訓練が行われている。地域との防災協定等はまだ結ばれていないが、万が一の場合に火災報知器が防火管理者の自宅まで連動して鳴るようになっており、近所の方もすぐ駆けつけられるようになっている。スプリンクラーについても設置済みである。	

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の自尊心を傷つけないようトイレ介助、入浴介助など言葉遣いに配慮している。日常生活の中でも利用者さんのできる事を奮わないよう配慮している。	職員は入居者一人ひとりを大切に、年長者に対して敬意をもって接しており、言葉がけにもその配慮がうかがえた。プライバシーの確保についてはスタッフ会議の事例発表等で学習したり、気のついた時点で相互に注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を優先する支援を行っている。又、自己決定できるような取り組みをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課にはなっているが、行事や活動、誕生日の食事など希望に添った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった服装や衣類の修繕などその人らしい身だしなみができる支援を行っている。又、カラーリングや散髪も職員が行っており、おしゃれの支援を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんと職員と一緒に準備し、皆でテーブルを囲み会話しながら食事を楽しんでいる。	入居者が慣れた手つきで丁寧に盛り付けをし生き生きと動いている姿に、働くことが生き甲斐であり、自己実現の喜びが自然に表情として出ているのではないかと感じた。職員も一緒に調理や盛り付けを行っており、全員一緒に和やかな雰囲気ですべてを食べていた。入居者がホームの畑で収穫した玉ネギやほうれん草などの野菜が食卓に上ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの良い献立や食べやすい形態にするなど、個別に支援している。水分摂取量も、適切な量の確保をできるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	2回/Wの洗浄剤を使用し、磨き残しがない様にチェックしている。		

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄の自立は基本としているが、その人の身体レベルに応じ、夜間のみ、ポータブルトイレの使用もされている。	排泄の自立に向けて声かけ等個々に応じた支援を行っている。入居者一人ひとりの排泄パターンを把握しておりできるだけトイレで行うようにしている。夜間にポータブルトイレを使用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事や水分を多めにとる、運動をするなど便秘予防に心掛けている。又24時間排泄記録によりコントロールが出来ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は概ね決まっているが、浴室内に同時に3人まで入れるので気のあった人と楽しく会話をしたり、歌を歌いながらゆったりと楽しんでいる。	お風呂が大きく、3人くらいで仲良くおしゃべりしながら入浴をするので拒否する方はいない。少なくとも週2回を予定しており、夏場、汗をかいた時などはシャワーで対応することもある。庭のバラを摘んでのバラ湯や菖蒲湯、入浴剤などで香りも楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の流れが規則正しい習慣に定着されている。午睡も2時間あり、十分な休息もとれている。又、むやみな睡眠導入剤の使用を避け、安眠できるような取り組みを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化や副作用については、主治医と連携を図り内服薬の増減を行っている。又、個別に服薬確認や服薬介助も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や畑仕事などその人のできる事を役割とし、毎日の生活が生き生きと暮せるような支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見や紅葉狩り、外食、買い物ツアー、近隣の学校や幼稚園などに出かけている。又、ホームの散歩コースを天気の良い日は皆で散歩をするなど、できるだけ外に出て気分転換ができるような支援を行っている。	お天気が良ければ毎日近くの散歩コースを30分くらいかけて歩いている。行事外出として花見、紅葉狩り、外食等に出かけ、食材の買い物にも職員と共に出かけている。毎年近くの小学校の音楽会にも招待され、児童の合唱などを楽しんでいる。	

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別にお金を所持し、自由に使える人もいますが、ほとんどの人は所持していない。(紛失のおそれあり)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員対応ではあるが、家族へはいつでも連絡ができるように努めている。誕生日等の贈り物が届いた際には、電話口で話せるよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは日当たり、眺望共に良く、ベランダには、花や鉢物を置き、時には日光浴を楽しんだり、花の剪定を行う等、充実した日々を過ごせるよう工夫をしている。	南に面した透明なガラス戸からは北信州の山々が望まれ、冬の暖かな日差しが射し込んでいた。食堂とホールが一体になっており、この広い空間で入居者がテレビを見たり、歌を合唱したり、運動をして終日過している。鉢物や入居者の作品も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	午睡時間や夕食後は、2階のソファで気の合った人たちで過ごすなどの場面が毎日のように見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのものや使いやすい家具を使用するようにしている。又、毎日自室を掃除して清潔な居室で生活されている。	地デジ対応の新しいテレビを備え付けたり、自分が書いた習字や家族の写真を飾ったり、慣れ親しんだ家具を置いたり入居者一人ひとりに合った居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリーになっているが、毎日、踏み台昇降を行い転倒防止や下肢の筋力の向上に努めている。又 体操を取り入れて、なるべく体を動かし自立した生活が継続できるように工夫している。		